

スクロールパネル

1. 概要

画面構成部品の一つに、他のコンポーネントを階層的に画面配置するためのパネルコンポーネントがありますが、その一種として『スクロールパネル』があります。これは、パネルの表示範囲より広い領域にわたってコンポーネントを配置している場合にスクロールバーを表示して、それを使って表示範囲を移動することで配置されたコンポーネント全体を表示することが可能なコンポーネントです。

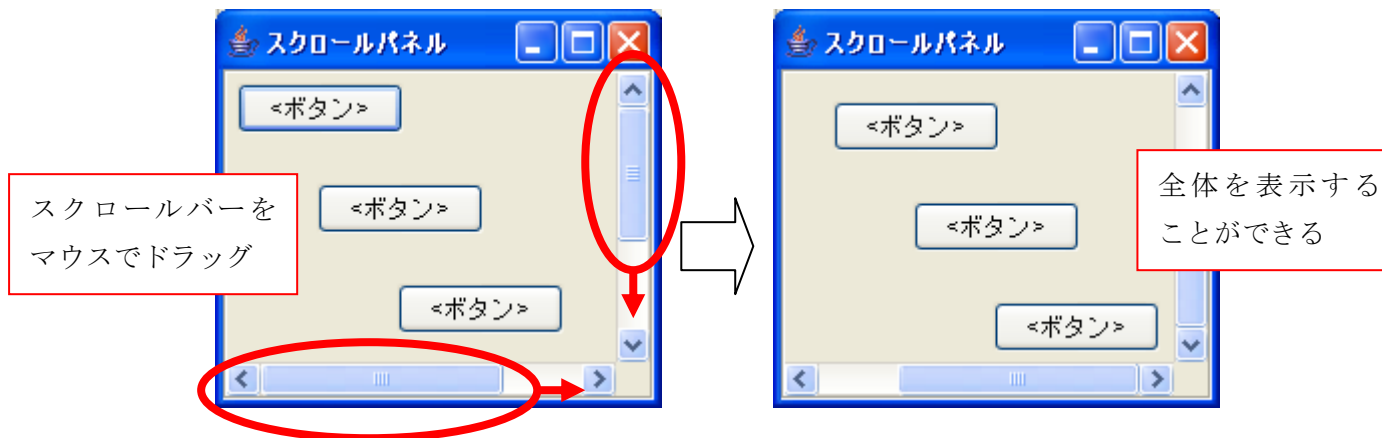


図 1 スクロールパネルの画面イメージ

スクロールパネルをビルダーで追加する際のメニューは[コンポーネント追加]-[画面構成部品]-[パネル]-[スクロールパネル]です。

2. 用途

スクロールパネルの用途は以下の通りです。

- アプリケーションの画面構成を洗練させたい場合に用いる

3. ここで使用するイベントとメソッド

スクロールパネルコンポーネントからはイベントが発生しません。また、主に画面構成のデザインに使用しますので、ここではメソッドも使用しません。

4. コンポーネント使用例

スクロールパネルのサンプルアプリケーションは”AP_DATA¥Sample¥スクロールパネル.mzax”にあります。このサンプルでは、分割パネルと組み合わせた使用例を、通常のパネルコンポーネントと比較しています。その画面イメージを図 2 に示します。

注意事項：スクロールパネルの追加や、スクロールパネルへのコンポーネント配置に関しては、通常のパネルコンポーネントと同様なので説明を割愛します。また、分割パネルについても別に文書がありますのでそちらをご覧ください。その他のコンポーネントに関しては、使用法がわかっているものとして説明を省きます。ここにある以外の情報に関しては別途チュートリアルやリファレンス、*Javadoc* ドキュメントを参照してください。

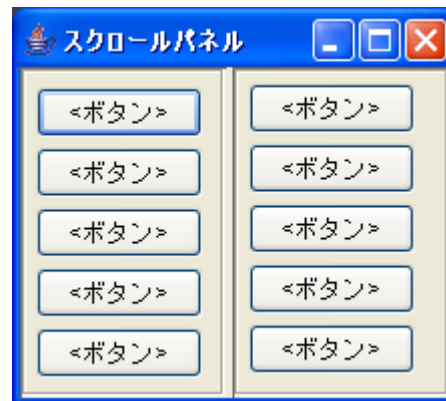


図 2 スクロールパネルのサンプルアプリケーション画面

図 2 に示すサンプルアプリケーションでは、フレーム全体に分割パネルが配置されていて、分割パネルの左側には通常のパネル、右側にはスクロールパネルが配置されています。どちらも、5つのボタンが縦方向整列で並んでいる状態です。

分割パネル自体はフレーム内で領域配置の **Center** にあり、フレームのサイズ変更で分割パネルのサイズも変更します。この状態で垂直方向のサイズを小さくし、分割バーを右に少しずらした場合は図 3 のような結果になります。

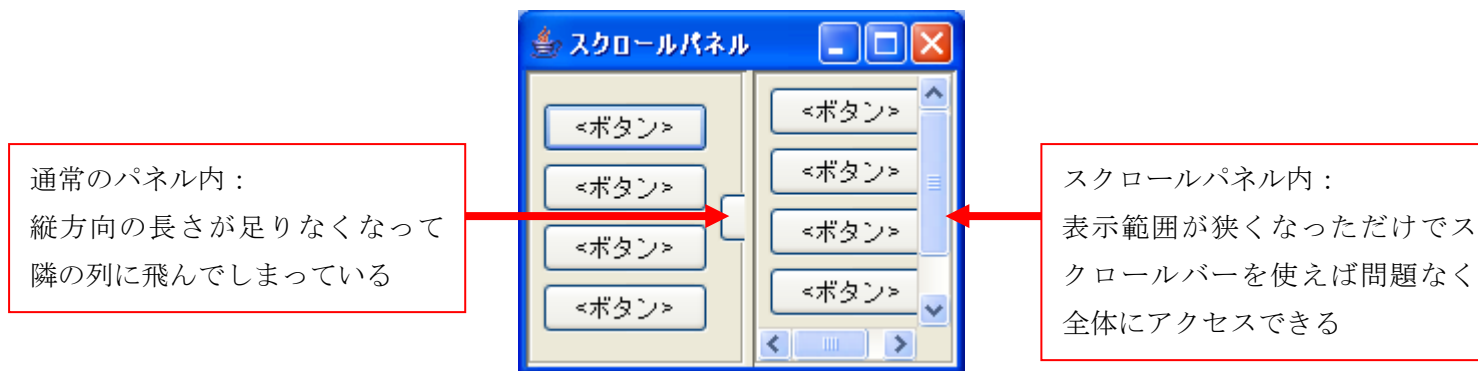


図 3 フレームサイズの変更結果

左側のパネル内に縦方向整列で並んでいるボタンがすべて表示しきれなくなり、隣の列に飛んでしまっています。しかし、通常のパネルでは表示位置をずらすことができないため、場合によってはこのボタンを使えなくなってしまいます。

一方、右側のスクロールパネル内では、垂直方向のサイズが小さくなりバーの位置も右側にずれて表示領域が小さくなった場合には、スクロールバーが表示され表示位置を移動することができるため、どのボタンも問題なく使用することができます。

スクロールパネルに特有の属性としては以下が挙げられます。

- マウスドラッグの可否(DragEnabled)

これを **true** にすると、スクロールパネルの背景部分でボタンを押下げた場合、ドラッグによって表示位置をスクロールすることができます。初期設定は **false** です。